

8th Annual INTERNATIONAL CAD/CAM Technology Symposium & Expo

The Digital Revolution

11月17日～カリフォルニア州パサディナ市 reporter：菊地栄二 補綴第一課課長



デンタルコンセプト21例会

11月5.6日 ベルサール九段 reporter：遠藤隆雄 営業課課長

今回初めてDC21に参加し、大変印象深かった事は、歯科技工士にとって馴染みの薄いインプラント歯周炎の事が主なトピックになっていた事です。

インフェクションコントロールをどの様に行うか、BOPが歯周炎かどうかを判断する重要な役割を担っている事の説明、細心の注意を払ったとしても付いてしまうマイクロレベルの傷への対処法、プラークの除去に効果的な材料の説明、All-on-4の弱点など、様々な講演が行われました。また、企業展示ブースへの出展、企業説明会への参加など、弊社も積極的にアピールする事も出来ました。今回、DC21に参加して、その時代にあった素材・治療方法を常に考え、日々の業務に取り入れることで、患者様のニーズに答えられるのだと強く感じました。私たち歯科技工士もまた、最新の技術と製作方法を常に念頭において、生き残らなければならない。そう思いました。



講師による質疑応答

会場の様子

国際口腔インプラント学会 学術大会2011

11月6日 東京都永田町 全国町村会館 reporter：深沢元樹

東京都永田町、全国町村会館にて「国際口腔インプラント学会 学術大会2011」が開催され、弊社でも当学会の理事である代表の宗村を筆頭に当大会の実現に向けスタッフの派遣など行いました。今回はAIAIのドイツ本部であるDGZ1より、先生3名にお越し頂いての大会となり、ドイツでのインプラント治療について午前中目いっぱい講演していただきました。講演内容は英語によるものでしたが、レシーバーで同時通訳を聴きながらの聴講となり、参加された先生方も熱心に聴講されていました。午後には津田忠政先生を座長として、糸瀬正道先生、菅原明喜先生、下尾嘉昭先生による「グラフトvsグラフトレス」をテーマとした講演が行われました。別室では歯科衛生士向け、歯科技工士向けのセミナーも開催され、それぞれ大変な盛況となったようです。次回の開催は2012年11月17・18日を予定しております。

国際口腔インプラント学会HP：<http://www.aij-japan.jp/>



Prof. Dr. Rolf Vollmer

Prof. Dr. Mazen Tamimi



ディスカッション

懇親会

カリフォルニアにあるパサディナ市で行われた、DLOAC 8th Annual INTERNATIONAL CAD/CAM SYMPOSIUM & EXPO に参加しました。DLOACは今年で70周年目を迎えるカリフォルニアのラボオーナー協会の事で、日本で言う歯科技工所協会のような会です。弊社からは代表の宗村と宗村政明、私の3人、ハワイ支社からは梶田マネージャーが参加しました。

11月17日 日本時間17日17時のフライトで出発し、日付変更線を過ぎ17日朝に現地へ到着。9時30分にハワイ支社の梶田マネージャーと合流し、社長の知り合いの「Mega Tech Dental Laboratory」を見学しました。3人でやっているラボでしたが、面白いことにメタルワークは外注に出し、模型作りと築盛を自分の所ですという、いかにもアメリカらしい仕事のやり方をしていました。18時過ぎにはUCLAで講師をしている遠藤淳吾氏と食事し、大学での事や現在の歯科事情など様々な事を話してもらいました。思っていた以上にフルジルコニアのケースが出ておらず、e-maxの方が多そうです。

11月18日 イベント当日、Dr. Ed McLaren (UCLA教授)の講演からの開始、いきなりスターウォーズならぬ「セラミックウォーズ」というタイトルで、監督、出演ともに本人というCG映画が始まり、大変びっくりしました。日本とは違い演出に大変凝っています。彼は、ドクターにも関わらず、技工の方も得意なようで、ジルコニアフレームと、ポーセレンの剥がれについて発表しており参考となる内容でした。

各CAD/CAMメーカー、ラボのプレゼンでは、スキャニングシステムについてはほぼレーザースキャンが主流で「3shape」「デンタルウィング」「Metric」などがプレゼンしていました。CAM(ミリング)の方は、日本とは違い、スキャニングデータを様々なメーカーに送信出来るオープンファイル形式をとっている為、設備の大きい(5軸ミリング、16シェードカラー、フルマウスBr、フルジルコニアクラウン、対応など)企業の方が有利に思えました。

11月19日 2日目には別会場でラボオーナー対象の研修会が行われ、メイン会場では、講師やメーカーのプレゼンがあり、前日のオープニングを飾ったDr. Ed McLarenのポーセレン築盛のハンズオンが有り、中国系ラボの企業説明など、あっという間に午前の部が終わってしまいました。昼食後はe-maxの有効性についての講習が開かれ、CDTやRDTを持っている人達は、勉強熱心で多くの質問をしていました。弊社ハワイ支社の谷崎氏はCDT、梶田氏はRDTの方を取得しています。

(※CDT=Certified Dental Technician)

最後に… 2日間と短い時間でしたが、大変内容の濃いものでした。各メーカーCADの方は、あまり大差は無い様に思いましたが、口腔内スキャンのできるメーカーは、一、二歩進んでいるように感じました。3年前シカゴのミッドウィンターで見たレーザーシンタリングの方はあまり見られず、代わりに口腔内スキャンからの模型をダイレクトに作る方法は確実に進んできているように感じました。模型の仕上がりも綺麗になってきていると遠藤淳吾氏と話をしていました。インハウスタイプのミリングマシンの方も、コンパクトに高性能になってきており、値段の方も下がってきているようです。期待をしていたトランスタイプのフルジルコニアクラウンは全く見られず、e-max、CADを押ししている所が多かったように感じました。

日本ではCAD/CAM=インプラント=審美補綴という形が強いと思いますが、「Valplast」のようにパーシャルデンチャーをCADデザインしたり、パーティタイプのものをデザインしたりと、義歯関係の方でも積極的に取り入れるなど、色々な考えがあると思いました。やはり、海外での歯科事情は日本より一歩進んでおり、中国などのラボも力を付けて来ると思います。5年後にはどうなっているか、わかりませんが、今の早い流れに乗り遅れないようこれからも頑張っていきたいと思えます。



左より 弊社代表の宗村・菊地栄二・宗村政明

NEW! 新素材のノンクラスプデンチャー エステショット「ブライツ」販売開始

従来のエステショットと比べ、耐衝撃性と研磨性が向上した「エステショット ブライツ」が発売されました。吸水量も低減されたため変色しにくく、研磨性も向上、しなやかで装着性も向上しました。今までのものより軟らかく補修可能なノンクラスプデンチャー。詳しくは営業までお問い合わせください。

EstheShot Polyester for Esthetic Denture Base Bright

カラーバリエーション



NEW! 最新CAD/CAMシステム アドバ GCの「Aadva」システム導入

ジーシー社提供のアドバシステムを導入致しました。3shape社のスキャナーとソフトウェアを利用したシステムであり、今までにない操作性を実現し、かつ20μm以下の高精度スキャニングを実現しています。インプラント関連技工物からフルジルコニアクラウン、ブリッジ、カスタムアバットメント等、ほぼフルラインナップのご提供が可能となります。詳しくは営業までお問い合わせください。

